

(事務局 西田)

「(1)地域包括支援センター活動状況報告書について」

「(2)地域包括支援センター評価指標について」

「(3)地域包括支援センター決算書について」

(1)から(3)について説明

(家高会長)

ありがとうございます。それでは、委員の皆様、説明内容及び資料についてご質問ございましたら、よろしくお願いたします。

(安達委員)

当日資料1の精道高齢者生活支援センターでは、地域ケア会議が開催されていませんが、できていない理由をお聞かせいただきたいと思います。

(精道高齢者生活支援センター)

地域ケア会議は、令和元年度は開催できておりません。多くの方が集まって開催する案件がなかったためです。地域ケア会議ではない形で、地域住民や関係機関の方との会議は実施しましたが、地域ケア会議は実施しなかったということです。

(安達委員)

これは昨年度だけですか。新型コロナウイルス感染症の影響があったのですか。

(精道高齢者生活支援センター)

そうではありません。

(安達委員)

業務を委託している立場としては、開催できていない理由があれば教えていただきたいと思います。

(精道高齢者生活支援センター)

個別ケースでの地域ケア会議はできておりませんが、自立支援型の地域ケア会議は各センターと協働しながら開催はできております。

(事務局 西田)

自立支援型の地域ケア会議とは、主に職員のスキルアップを目的に実施している会議で自立支援型も通常の地域ケア会議も目的は同じです。昨年度精道高齢者生活支援センターでは、個別の地域ケア会議の開催には至らなかったということですが、必要最低限の関係者が集まる会議は数多くされていると聞いていますので、通常の地域ケア会議の開催が困難な理由として、開催の準備の煩雑さなどの課題については、担当として各地域包括支援センターと話し合いをさせていただいて、取り組んでいきたいと思っております。

(協委員)

資料1の5ページで、地域包括支援センターの相談件数が年々増えている中で、当日資料1の説明にもあったように、終結の定義がなく、その後地域包括支援センターが見守っている件数が増えているということだと思います。地域包括支援センターが受けた相談、その後、問題解消のために別の機関や民生委員等の地域住民で支援できる仕組みを検討していく必要があると書いてあるのですが、地域包括支援センターが支援し続けられないといけない支援ニーズがどういったものか、教えていただければと思います。

(家高会長)

それぞれの地域包括支援センターから回答をお願いします。

(西山手高齢者生活支援センター)

例えば虐待対応として「終結」や「虐待なし」となったが、家族バランスが不安定なまま、高齢者の方が地域で生活をしていくには、私たちの関わりやモニタリングが必要だなど

思われるケースは、見守り等で継続していることがあります。

（東山手高齢者生活支援センター）

高齢者と同居している家族に障がいのある人がいらっしゃる場合など、複合の問題を抱える家庭について、他機関と連携しながら、支援するため、支援者会議で関係機関が集まって、支援の方向性等を話し合う機会を持っておりますので、地域包括支援センターも継続して支援しているケースとして考えております。

（精道高齢者生活支援センター）

総合相談として受け、ケアマネジメント支援をし、終了した場合でも、そのケースが複合多問題の場合やケアマネジャーへの支援が必要な場合には地域の後方支援という形で関わります。

そのほかに、8050問題のようにひきこもりのご家族がいるが、他の機関につなぐことができないケースを信頼関係がある地域包括支援センターが引き続き支援することはあります。

（潮見高齢者生活支援センター）

出口がない、つなぎ先がないということで、例えば、病識がないが精神疾患と思われる方、受診歴もなく、障がい者相談支援につながらない方など、明確な精神疾患や精神障がいとは断定できないが、周囲との関係性が築けず、孤立した方、対応が難しい拒否的な方は、要支援者として残っています。追いかけることができず、何年か後に重篤な状態で発見され、その時には救急搬送等の対応をしないといけない状況になっていることもあります。

（家高会長）

終結に至らないケースのニーズは何かということですが、ニーズだけではなく、地域包括支援センターが抱え込まざるを得ない問題は、その地域での対応力と関係してくると思っています。そう考えた場合、今回行政からもご報告頂きました課題は、地域全体で住民を守る仕組みの充実が重要であり、相談件数が増える中で、専門機関だけでは対応が難しいところにも、住民の方々も巻き込みながら、地域での見守りや支え合いにつなぐ仕組みを充実させることが課題としてあげられました。

私個人の考え方ですが、このような仕組みをつくっていくには、地域ケア会議が非常に重要な役割を担うと思っています。困難事例に対して、専門職、専門機関だけではなく、住民の方々も一緒に支援方法を検討し、実際に支援を行うところまでが地域ケア会議だと思っています。

住民の方々と一緒に取り組むことで、専門機関と地域のつながりが強化されていくでしょうし、地域の方々は対応方法が学べたり、福祉に関する見方、考え方も学べる機会になります。地域ケア会議で一旦終結した後、関係者が再び集まってフィードバックを行い、住民の方々の取組がどういう意味を持っていたかを意義づけられているといったこともよく行われています。このような取組を行うことによって、自分たちにどういう取組ができるのか、それがどういう意味を持っているのかを知ることができます。また、ケースや成功事例を積み重ね、他の地域と情報を共有することで対応力が高まっていくと思います。

事前資料の評価指標で、参加者が地域の問題を抱えているとすると、項目 24, 25, 26, 27, 28, あるいは資源ソースとすると、35 も重要になると思います。

各地域包括支援センターから、地域ケア会議を活用した地域とのつながり強化を目指した取組状況についてご報告をお願いいたします。

（西山手高齢者生活支援センター）

経年的にケースを見ていかなければいけないケースは複数あり、今年度も地域ケア会議の計画はしているのですが、新型コロナウイルス感染症の拡大で開催方法を迷っています。顔の見える会議開催は適切かと考えていますが、ファックスや電話といった方法で情報収集して協議をするやり方がいいのかなと悩んでいます。今年度はまだ一度も開催できておりま

せん。

（東山手高齢者生活支援センター）

地域の対応力というところで、今年度は大きなテーマとして地域との顔の見える関係性づくりを深めていくことを考えております。

センターでは、実施から4年目の定期巡回訪問で、民生委員さんにもご協力頂き、独居の高齢者、高齢者夫婦、地域の少し不安だなという方、センターとして支援が必要だが、支援が入れてなくて気になる方を対象に、おおむね3か月に1回、3職種が必ず訪問し、直接話をする取組を行なっております。これにより地域での孤立や、重度化予防に対して一定の効果は感じています。昨年度の途中から新型コロナウイルス感染症の影響があり、訪問が難しい状況もありましたが、電話による対応や、電話だけでは不安という方に対しては、個別に訪問しています。訪問すると喜ばれますので、センターとしては、やりがいのある取組だと思っております。

一方で閉鎖的なマンションの孤立化とケースの重度化が続けて起こっています。非常に状態が悪くなって、家の中は生活ができない状況にあることもありましたので、今年度はそのような課題を解消していくため、マンションへアプローチを行い、課題やマンション独自のニーズをキャッチできるように強化していきたいです。

地域ケア会議は、昨年度は2件、今年度は今月に開催しました。認知症の方を地域で見守る課題が多いのですが、新型コロナウイルス感染症の拡大の中、多くの方が来てくださりご意見を頂きました。参加者に分かりやすく説明をする事前準備に時間をかけて行っております。

（精道高齢者生活支援センター）

今年度は1件、地域住民、民生委員との会議を開催して連携する中で、始めは地域で排除されそうな傾向にあった高齢者に対し、その方を支えていくように変化したケースがあります。その後、地域の方が、別の住民を助けたり、近くの商店がお弁当の配達を始めるなどの動きも出てきました。もう1件、成年後見人手続きやサービスにつないでいくにあたって、関係機関、地域住民の複数で支えるため会議を開く予定にしております。

（潮見高齢者生活支援センター）

昨年開催した1件は、精神疾患と思われる未受診の方でした。警察からの通報もあり、ご家族の了解を得て開催したケースです。

今年度も2件ほど準備中です。ボーダーラインと思われ、地域から孤立している方と認知症が進行し、地域の方に支援の協力をしてほしいというケアマネジャーの意向から、開催予定のものがありません。

（家高会長）

今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係もあり、適切に評価指標の中では表し切れていない部分もあると思います。ただ、地域ケア会議が地域包括ケアシステムを推進していく上で重要な鍵となると言われています。

また、ケアマネジャーは事例を提出するとなると、自分の実践を評価されるようで躊躇されますので、そういったところのサポートや、根回しが必要ですし、住民の方々に対しても配慮が必要になってきます。また個人情報の問題で、呼びたいけど呼べないというような問題もあるかもしれません。地域ケア会議を開催する上でどこが課題になるのかを明確にし、地域包括支援センターだけで考えるのではなく、行政としてサポートしていく役割があると思いますので、情報交換をしながら開催できる方向で進めていただけたらと思っております。

（事務局 西田）

議事の(4)地域包括支援センター実績報告書について、(5)地域包括支援センター計画についてにつきましては、各地域包括支援センターより報告頂きたいと思っております。

(西山手高齢者生活支援センター)

課題は普及啓発です。資料4イの総合相談支援業務の具体的活動内容のところで、相談会、郵便局やアクティブライフ山芦屋内のサロンを通して地域包括支援センターの普及啓発に努めるとしており、地域住民への普及啓発が課題と考えております。これを重点項目とした理由は、相談の最初の電話の際に、「どこに相談をしたらいいのかわからないのだが、こちらでいいですか」という声をよく聞くことからです。介護予防教室等に関わっている方でも、介護保険の申請手続きに市役所に行かれる事例もあり、啓発が十分ではないと実感しております。普及啓発の活動として、郵便局で相談会を開催したところ、地域包括支援センターに相談すればいいのですねというお声もあり、効果があったと思います。地域包括支援センターにどのような機能があるのかを説明できないといけないなと感じております。

資料5では広報を継続する必要があると考え、活動計画に入れました。それに加え、法人内のイベントとコラボしての行事を計画していたのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、1年は活動しないことになりました。感染予防を配慮しながら、どんな活動をしていくか、関係機関と相談しながら取り組んでいく必要があると感じています。

(東山手高齢者生活支援センター)

課題としてマンションでの関係性づくりをあげており、約4年前から定期巡回を三職種で行っています。対象は独居等、地域の方が心配の声を上げてくださるような方を中心にしていきます。その中で、マンションによってはセキュリティーがしっかりしていて、中の様子が分からないケースや、山手圏域の特徴ですが、横のつながりを望まない方が多いです。実際は、重篤化して見つかったり、救急搬送されたりとあるので、そういった点が課題と思っています。

また、定期巡回を通じて、民生委員等との関係性が深まりました。総合相談の継続件数が減っているのは定期巡回の成果であると感じています。

(精道高齢者生活支援センター)

高齢者が多い地域で、早期発見と重篤化の予防を課題に取り組んでいます。取組として、「ひと声運動」を平成30年度から継続しております。介護予防のことや消費者被害の防止について啓発をすると同時に、利用者自身の周囲に対しても目配りをしていただくよう声かけをして、アウトリーチの仕掛けをつくる活動を続けています。

(潮見高齢者生活支援センター)

長年、地域イベントや行事へ積極的に参加をしています。陽光町にはLSAもあり、様々な取組をしています。高齢化率37%、要介護認定率30%を超えている地域で、課題は地域同士の見守りでは追いつかない実態になっています。

昨年度は、専門職から見た地域課題を考え、地域の皆さんが集まる運動会で地域内各事業所にお手伝いを頂きブースを設けました。100人を超える方がブースに来ていただき、住民の皆さんの声を聴ける場となりました。

また、喜楽苑では、新浜町のローソンの中に窓口を開いております。職員が交代で窓口対応し、潮見圏域の浜風小学校区窓口の機能として定着をしてきております。全体の件数のうちの54件が地域包括支援センターにつながる相談内容でした。

本年度は、活動の進捗管理をする担当者をつくり、それぞれの職員で役割を決めて意識づけをしております。しかし、出口のないケースや緊急対応になってしまうケースが1件発生しますと、こういった地域課題に取り組むのが後回しになります。

(基幹的業務担当)

4センター協働で、認知症地域支援推進員による地域支援をしています。昨年度は、市立山芦屋病院のヒアリングの実施や兵庫県社会福祉協議会が主催する「若年性認知症とともに歩むひょうごの会」を山芦屋で開催しました。認知症の方が地域包括支援センターに相談されたときには認知症の症状が進んでいる、相談に来られても介護保険の利用に至らず支援ができ

ていないという認知症相談センター機能としての課題があります。認知症地域支援推進員が、地域の関係機関と支援していく体制づくりを進めたいと思っております。今年度開催した認知症当事者の会も、そのような場づくりにしていきたいと思っております。

(家高会長)

委員の皆様，説明内容，資料について何か質問等ありましたらお願いいたします。

(神田委員)

例年，沢山の事業をされている地域包括支援センターですが，今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく出ていると思います。会議や人が集まることが多い中で，例年実施している活動と比べて，人が集まる活動では，集客が何割くらいの状況になっているかを教えていただきたいと思います。

(東山手高齢者生活支援センター)

4月，5月は大体半分ぐらいの規模で実施し，イベントを少しずつ再開している現状です。参加される方は50%減だと思います。その代わりにオンラインを利用して，近隣の学生さんと一緒に多世代の交流を開催しております。

(精道高齢者生活支援センター)

7月初めぐらいから会議も再開しております。今年度予定していた活動の半分以下ぐらいしかできてないです。

介護予防教室や実施しなくてはいけない研修等は配慮しながら再開していくと思います。

(潮見高齢者生活支援センター)

現状としましては，いろんな行事が中止になっており活動できない状況です。中学校区全体でやる夏祭りも中止になり，先ほど申し上げた行事も今年は開催するかどうかはまだ決定しておりません。一方で，ソーシャルディスタンスを保ちながらちょっとしたイベントはされております。そういったところに私ども地域包括支援センターも行きたいのですが，自粛せざるを得ません。事前の準備，事後の後片づけは協力しておりますが，今までのように行事に関わるということではできておりません。3分の1以下ぐらいの感じです。

(西山手高齢者生活支援センター)

今年度初め，イベントの企画自体はいろいろあったのですが，ほとんど実施には至っていない状況です。

新型コロナウイルス感染症も徐々にピークアウトしていく状況となれば，これから地域ケア会議など開催したいと思っております。オンラインでの開催も，住民の方がどこまで，スマートフォンやパソコンで参加できるのかといった課題がありますので，そこを確認しながら進めていこうと思っております。

(神田委員)

私たちケアマネジャーも訪問を中心としているのですが，ご利用者さんから訪問を自粛してほしいという依頼もあり，行けないことがあります。かといって仕事が少なくなったわけではなく，訪問が減った分電話が増えるといったこともあります。オンラインも徐々に進めたいという思いもあり，今までにない新しいことをしていくのは非常に労力と時間がかかると思いますが，止まらずに何か工夫を継続的にやっていただけたらなと思います。

(家高会長)

資料5の令和2年度事業計画を見させていただきました。1ページ目の精道高齢者生活支援センターで，項目は基本事項1，2，3，4とあるのですが，記載されている内容が3，4に限定されており，1，2の記載がされていないという点があります。2ページ目の潮見地域包括支援センターは，2番目のPDCAサイクルに関する記載がありません。3ページ目の西山手地域包括支援センターは，7の記載がない，同じく精道地域包括支援センターは，5と8の記載がありません。恐らく取組は実施されるのですが，記載がありませんでしたので，どういうふうなお考えなのかを聞かせていただけたらなと思っております。よ

ろしく申し上げます。

(西山手高齢者生活支援センター)

西山手は認知症高齢者及び家族への支援に対し、地域包括支援センターと認知症相談センターの役割の啓発を含めて活動しております。地域包括支援センターに認知症地域支援推進員が配置されておりますので、連携しながら対応しております。8番にもある認知症初期集中支援チームが芦屋市にございますので、そちらの活用も視野に入れケース対応を取り組んでいきたいと考えております。

(精道高齢者生活支援センター)

P D C Aサイクルは、地域包括支援センターの運営マニュアルにある基本的事項を守りながら運営していきます。地域の高齢者相談対応についても、書けてないことについては、考えなくてはならないと思います。

(潮見高齢者生活支援センター)

その中で自分たちの強み、弱みを目標立てとして上げています。

(家高会長)

全ての項目で書いてある地域包括支援センターと書いてない地域包括支援センターがあります。地域包括支援センターの中でも認識が違っているのではないかと思いますので、行政も含めてすり合わせをしていただく必要があると思います。

例年と同じ項目であっても、昨年度の反省を踏まえた上でP D C Aサイクルが全ての項目においても大事だと思いますので、よりよくなるために、各事業所でしっかり取り組んでいただけたらと思います。

議案の次第の4、その他に移ります。

(事務局 吉川)

課題の部分も含め、ご意見ご質問を頂きありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の問題がある中でどのように活動していくのか各地域包括支援センターと協議を重ねながら進めてまいりたいと思います。

第2回目の本協議会は、令和3年3月に予定させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(家高会長)

令和2年度第1回地域包括支援センター運営協議会を終了いたします。